

北総線運賃値下げ検討へ～県議会で知事答弁

北総鉄道の室谷正裕社長は株主総会で6月23日、北総線の運賃値下げを検討すると表明。同日に行われた県議会・自民党代表質問においても、知事より、同社から値下げ検討の話があったとの答弁がありました。

●都市型鉄道としては日本一割高との汚名

京成高砂駅（東京都葛飾区）から印旛日本医大駅（印西市）まで 32・3 キロを結ぶ北総線。北総鉄道の車両の他、スカイライナーなど京成電鉄が運行する車両も供用しています。

問題は、都市型鉄道としては日本一割高と言われる鉄道運賃です。京成高砂駅～印旛日本医大駅間の普通運賃は 840 円で、ほぼ同距離の J R 線・上野駅～我孫子駅間（33・5 キロ）561 円、京成線・京成高砂～京成臼井駅間（33・0 キロ）491 円との運賃格差は歴然。また、印旛日本医大駅～印西牧の原駅の間わずか 3・8 キロの運賃が 309 円もするなど、距離が短いほどその割高具合が高くなっており、地元住民による日常利用を無視する現行運賃体系にも大きな問題があります。

●21 期連続黒字で累積赤字は 32 億円に

これまで、路線建設に充てた有利子負債が多く残っているとして、運賃値下げに首を縦に振らなかった同社ですが、ニュータウン開発の進展で業績は好調。21 期連続の黒字により、1999 年に 14 百億円に上った有利子負債は 645 億円（2021 年）にまで縮小し、最大 447 億円あった累積赤字も残り 32 億円足らずです。東葉高速鉄道（西船橋駅～東葉勝田台駅）の、有利子負債 2415 億円、累積赤字 675 億円と比較すれば、もは

路線	区間	運賃		累積赤字	有利子負債
北総鉄道	高砂～印旛日本医大 (32.3キロ)	840円	北総鉄道	32億円	645億円
JR常磐線	上野～我孫子 (33.5キロ)	561円	東葉高速鉄道	675億円	2415億円
京成電鉄	高砂～京成臼井 (33.0キロ)	492円			

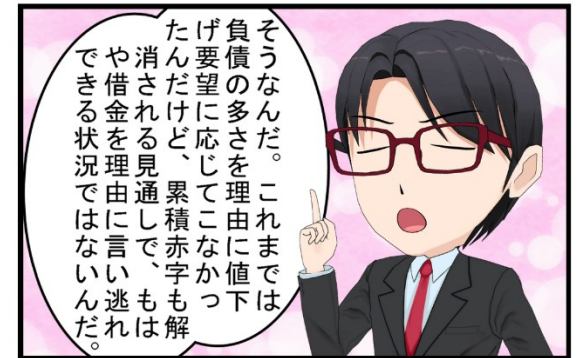
や「借金」を理由に言い逃れできる状況ではありません。

●通学定期運賃の値下げなどを強く要望

6 月定例県議会の代表質問に登壇した、自民党・伊藤昌弘議員（佐倉市選出）が、北総線高運賃問題への取組方針についてたずねると、熊谷知事は会社の経営状況は昨年度まで 20 期連続で黒字を計上し、累積損失も着実に減少している」とし、室谷社長から「早ければ 2022 年度に累積損失を解消できる見込みで、運賃値下げの可能性の検討に着手する」との前向きな発言があったと明かしました。

運賃値下げの早期化、大幅値下げの実現とともに、運賃体系の見直しも期待したいところ。自民党では、①家計への負担を考慮し、特に通学定期運賃の値下げを図ること、②都心部への通勤需要のみならず、市民の日常的な利用需要に応えるよう、短距離利用を含めた全線域の値下げを図ること、の 2 点を求め、県として北総鉄道社に働きかけるよう要望したところです。

地元選出の県議会議員として、利用者の視点に立った運賃値下げとなるよう働きかけを続けます。



いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

略歴 1970年(昭和45年)生まれ51歳
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax: **0476-36-7802**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)



Follow me, please.
ツイッター始めました!

横断歩行者への安全対策を要望 栄町酒直台

速度超過車両が多く、横断歩行者の危険が指摘されてきた栄町・さわやか通り。地元の酒直台自治会長らとともに成田警察署を訪れ、速度規制などの安全対策の強化を要望しました。

●児童、高齢者の横断に車止まらず、「ヒヤリハット」

さわやか通り(町道1005号線)は、栄町酒直台から同安食の大鷲神社付近までを結ぶ約2.5km。栄町中心部を東西に貫き、印西市、茨城県南部と成田市、成田空港を結ぶ主要路線として、地域内外の車両が多く通行しています。

問題となっているのは、さわやか通りの上限速度の高さと速度超過車両の存在です。さわやか通りは酒直台付近で大きくカーブし、見通しが良くないのですが、同区間の上限速度は法定速度の時速60キロと、住宅地を走る道路としてはやや高め。しかも、その法定速度を大きく超えて走行する車両も少なくありません。結果、近隣の幼稚園に通う児童、保護者や地域の高齢者が、横断歩道を渡ろうとしても車両がなかなか止まってくれないばかりか、車両と接触しそうになる「ヒヤリハット」も日常的に発生しているのです。

●警察も認める「進入速度の速さ」と「見通しの悪さ」

実は、同区間の安全対策の要望は今回が初めてではありません。平成24年には酒直台自治会として、「最高速度規制の引き下げ」と「大型車通行禁止」を、その後、岩井としても同自治会からの要望を受け、「横断歩道の新設」を働きかけたことがあります。しかし、いずれも要望が実ることとはなく、特に横断歩道新設が実現しなかった理由は、車両の進入速度の速さと見通しの悪さから、かえって横断歩行者の危険を招く恐れ



大きくカーブするさわやか通り(赤線部分)

があるからとのこと。住民の安全を守るためには、とにかくにも通過車両の速度を下げなければならぬといわけです。

●警察署長「速度規制のみならず方策を検討する」

酒直台自治会長、副自治会長さんとともに成田警察署を訪れたのは8/6のこと。これらの事情を説明の上、さわやか通りの最高速度規制の引き下げや速度制限予告標識の掲示等を要望しました。

対応にあたった警察署長は、酒直台地区に進入する速度超過車両の問題を認め、速度規制のみならず、路面舗装など速度を落とさせるための方策など広く検討していくことを約束。今後、所轄警察署として調査を進めるとともに、地元住民の意見も踏まえながら対策を講じていくとしています。

こうした速度規制や信号機、横断歩道の設置等、警察に関わる問題は県政の「守備範囲」。身近にお困りのことがありましたら、気兼ねなくご連絡ください。